

# 2014年3月4月合併 定期報告と次月度以降の活動予定

《栃木県生活協同組合連合会》  
文責：専務理事 中田

活動の記録と次月度日程		
3月	4日	生活困窮者支援交流会(日本生協連)
	4-5日	全漁連「全国青年女性交流大会審議会」(東京)
	7日	とちぎコープNPO助成金審査会
	8日	いわき市四倉仮設住宅お茶会
	11日	常務理事会(福祉C)・有機農業推進講演会(総文C)
	12日	地域研究会報告会(ふれあいコープ)・福田知事新春の集い
	13日	食肉センター整備検討協議会・食の安全ネットワーク全体会・県レジ袋削減推進協議会
	14日	小山市行政評定懇談会
	15日	GMOフリーゾーン全国大会in栃木(生活クラブ生協主催・エピナール那須)
	17日	宇都宮市長訪問
	18日	ふれあいお茶会・宇都宮市食品安全懇話会・労働者福祉センター理事会
	18日	消費者条例学習会・小山市地産地消食育推進総会
	20日	「災害時における応急生活物資供給等に関する協定書」協定
	25日	消費者ネットワーク幹事会(行政書士会館)
	26日	県農業成長戦略検討会議
	27日	「消費者行政と消費者団体の役割と課題について」阿南消費者庁長官講演(栃木県庁東館4階講堂)
	27日	農産物マーケティング協会総会
31日	阿南長官講演会終了挨拶(県民生活部へ訪問)	
4月	1日	代議員公告(4/30日まで)開始
	2日	福祉まつり実行委員会
	7日	くらし部会
	7日	労働者福祉協議会幹事会
	12日	酪農祭り
	14日	第5回定例理事会
	15日	ふれあいお茶会・役員選任申出公告(5/20まで)・福祉部へ訪問(介護保険制度の改正について)
	17日	とちぎ食の安全ネットワーク世話人会
	19日	いわき市四倉仮設住宅お茶会・消費者シンポジウム群馬
	20日	NPOとちぎ消費生活サポートネット総会
	22日	栃木県労働者福祉センター理事会・とちぎ消費者ネットワーク幹事会
	23日	福祉まつり実行委員会
	24日	栃木放送番組審議会
26日	福祉まつり(メーデー)オリオンスクエア	
30日	代議員締切り	
5月	1日	消費者月間街頭啓発チラシ配布 JR 宇都宮駅構内
	8日	JA「TPP決議の実現を求める栃木県緊急集会」
	8日	常務理事会・コウノトリ・トキの舞うふるさとおやまをめざす会(小山市)総会
	9日	労働者福祉協議会幹事会
	14日	消費者月間記念イベント「消費者の集い(総合文化センター)」
	15日	とちぎ食の安全ネットワーク全体会
	16日	協同組合研究所セミナー(東京)
	17日	ふれあいお茶会
	18日	フェスタマイうつのみや(城址公園)
	20日	役員推薦申出締切り・監事会「年度末監査」
	21日	役員推薦委員会・中央地連介護保険学習会・監査報告締切り
	23日	労働者福祉協議会総会・栃木県労働者福祉センター総会・代議員総会案内発送
	24日	いわき市四倉仮設住宅お茶会
	26日	厚生労働省消費者庁「消費者シンポジウム」三田共用
	27日	消費者ネットワーク全体会
29日	福祉ネットワーク世話人会・栃木放送番組審議会	
30日	第6回定例理事会	

## 県連活動

### 1. 第45回 定期総会の準備

1) 日時：2014年6月27日(金) 14時～16時30分 会場：宇都宮ホテル丸治

- 2) 議案：1号議案 2013年度事業報告及び決算報告、剰余金処分案承認及び監査報告の件
- 2号議案 2014年度事業計画及び予算決定の件
- 3号議案 役員（理事、監事）報酬決定の件
- 4号議案 役員選任の件
- 5号議案 規約規程等改定の件
- 6号議案 監事監査規程改定の件
- 7号議案 議案効力発生の件について

を予定しています。議案書は5月30日理事会にて成案とします。

- 3) 代議員選出は4月1日～30日までが公告期間、役員推薦申出は、4月15日～5月20日までが申し出期間としました。代議員は全会員から選出され定数に充足しました。

## 2. くらし部会

4月7日定例部会では、年間の活動の振り返りと次年度の取り組みについて協議しました。13年度の定期部会は6回開催し、「平和問題、エネルギー問題、非電化セミナー、貧困問題」と4回の定期学習会を実施しました。協働活動としてイベントの参加等は、「うつのみや食育フェア、元気なとちぎ消費生活市、第11回ECOテック&ライフとちぎ2013」でした。また、食と農をつなげる会への参加、宇都宮市消費者団体連絡会への参加によって「フェスタmy宇都宮、もったいないフェア、食育フェア、消費生活講演会、他団体交流会と参加しました。取り組みでは、「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める市民署名(7,545名)、うちエコ診断(142名)と取り組み、平和市長会議参加行政訪問(2市)を行いました。避難者の支援では、いわき市四倉仮設住宅お茶会、ふれあいお茶会(特養みどりでの開催)に毎月取り組みました。

14年度の計画では、定期学習会の実施、協働活動として行政の実施するイベント参加、食と農をつなげる会の開催、避難者支援の継続など、前年度を踏襲する形で活動します。

## **行政、他団体との協働活動**

### 1. 消費者庁長官の特別講演会

3月27日(木)栃木県と生協連共催で2013年度特別講演会を実施しました。テーマは「消費者行政と消費者団体の役割と課題について」(県庁東館4階講堂)、講師は阿南消費者庁長官にお願いしました。消費者団体、行政職員、生協関係者など、全体で158名が参加しました。アンケートでは、「消費者庁の取り組みが良く分かった」「消費者団体の役割が良く分かった」などの声がありました。(右スクラップ 知事表敬訪問の様子)



### 2. 福祉まつり 4/26 (労働者福祉協議会主催)

4月26日(土)に労働者福祉協議会による「福祉まつり」が実施され、生協連では野菜販売の模擬店を担当しました。

### 3. J A「TPP決議の実現を求める栃木県緊急集会」 参加要請

5月8日(木)に開催される集会に、JA栃木中央会より参加要請があり、20人で参加を予定します。

## ネットワーク活動

### 1. とちぎ食の安全ネットワーク

3月13日の全体会、4月17日の世話人会では、10月に予定している「とちぎ食品安全フォーラム」のテーマについて検討しました。検討段階で県民が要望しているものは何かを把握するために、県政アンケートの一つとして実施する「消費者の食に対するアンケート」を参考にすることになり、アンケートの実施に協力しました。県連の地域生協3会員が協力して実施しました。全体で571枚のアンケートが集まり、結果は「食に不安を感じている」と回答した方が43%、その内の「不安を感じる事柄」では ①外国農産品等の残留農薬 ②輸入食品の安全性 ③放射性物質の不安と、多い回答順となりました。依然として放射性物質に対する不安は継続しているようです。今後これらをもとにテーマを決定していきます。

また、年度の振り返りと次年度の取り組みについても話し合いを行いました。2013年度の振り返りでは、全体会を使って実施した学習会や見学会が年5回実施されたこと、栃木県との共催となる「とちぎ食品安全フォーラム」は「BSE対策の見直しについて(6月)」参加者166名と「放射性物質と食品の安全性について(11月)」参加者250人の2回実施したこと、また「食の安全地域フォーラム」の取り組みでは県内3会場で実施し「放射性物質についての栃木県内での取り組み報告(県北会場)」、「食をめぐる最近の状況～自らの手で食卓を守る～(県南会場)」、「放射性物質について～それぞれに取り組んでいること～(県央会場)」のテーマとし、3会場合計で278人の方が参加で実施したこと、パブリックコメント(「第2次宇都宮市食品安全推進計画(素案)」、「平成26年度栃木県食品衛生監視指導計画(案)」)を2つ発信したことなどを振り返りました。その上で、2014年度計画は13年度を踏襲する形で「とちぎ食品安全フォーラム」、「食の安全地域フォーラム」の具体化、全体会での学習会や見学会などの具体化計画を話し合いました。

### 2. とちぎ消費者ネットワーク

3月25日、4月22日の両日の幹事会では、2013年度の振り返りと2014年度の計画を話し合いました。

2013年度の振り返りでは、「消費者カレッジ」受託事業は11会場688人の参加があり、若者に向けた啓発活動として成果を上げたこと、消費者条例策定要請のための市長訪問では、全体で11市訪問し、消費者条例を検討する市があるなど成果があったこと、消費者シンポジウムでは1月に「その時、親は！～スマホ時代のネットトラブル こんな落とし穴にご用心～」をパネルディスカッション形式で実施し59人の方の参加があったこと、くらし安全安心課消費者行政推進室との意見交換会では「栃木県における消費者行政の取り組みと今後の消費者行政について」意見を交換したこと、イベントの協働活動では5月19日(日)フェスタmy宇都宮(2名参加)、9月29日(日)もったいないフェア(2名参加)、10月6日(日)食育フェア(2団体)、11月30日(日)消費生活講演会(2名参加)に参加したことを振り返りました。

2014年度の計画では、まず消費者被害防止の啓発活動のイベント(5月予定)に例年通り参加し(消費者月間の街頭活動・宇都宮市パネル展示参加、消費者の集いなど)、続いて消費者カレッジの継続、地域諸団体との連携強化、シンポジウムの具体化、全体会での定期学習会の実施、くらし安全安心課消費者行政推進室との意見交換会、消費者団体訴訟制度と適格消費者団体(特定適格消費者団体)についての学習、調査などを行う計画を話し合いました。更に、2015年1月に栃木県で予定される「地方消費者グループ・フォーラム(消費者庁の取り組み)」の中心的な事務局を務めることにしました。

## 震災支援活動

### [ふれあいお茶会<sup>1</sup>]

- 3月18日(火)第30回では、避難者11名参加、支援スタッフは県連会長・ウィズ2名・よつ葉生協1名・とちぎコープ7名・合計11名でした。世話人代表の吉田さんが進行役となり、進めていただきました。吉田さんから2月23日の東京マラソン完走の報告がメダルと共に報告され、参加者から歓声がありました。今回の手芸は2回目となりました。カラフルな布地や網状のクロスを使った「カーネーション」の小物づくりをしました。それぞれ個性的な仕上がりとなり、楽しそうに作られている姿や笑顔が印象的でした。おもてなしの料理は、宇都宮が餃子日本一に返り咲いたということで「餃子づくり」をしました。皆さんで具を楽しそうに皮に詰め、ホットプレートで焼かれていました。「雑穀米のおにぎり」「お漬物」「たまごとわかめのお吸い物」デザートは「はっさく」でした。いずれも「おいしい」と好評でした。
- 4月15日(火)第31回では、避難者23名、行政支援5名、支援スタッフは県連会長・ウィズ2名・とちぎコープ8名・合計11名でした。反省会で出されたことは。
  - ・ 初めて参加の方からは、「菓を飲まなければ熟睡できず、仕事があれば気がまぎれる」つらい様子が伝わってきます。
  - ・ 高齢の方は、「引きこもっていた」とのこと。引きこもらないように情報発信して行きたいと思いました。また、手芸が好評でお友だちの分まで材料を求めています。ささがきごぼうを作りながら、「こうして嫁と料理するのが夢だったのよね」と云われた時は、家族で暮らしていてもふとさみしい時があるのかなと感じました。
  - ・ 参加する毎に笑顔になってゆく姿をみて、お茶会がすてきな場になっていると実感しました。
  - ・ 心が不安定な方に、参加者の方が「来月まで元気になっているんだよ」と声をかける姿に、気遣っている様子が伝わってきました。
  - ・ お子さんが幼稚園に入る頃には福島へ戻るとのこと。人生設計があるようだ。除染のこと、子どもの学校のこと、福島へ戻るかどうかわかっている様子でした。
  - ・ 福島避難者支援の方、除染作業は5割程度、住宅建設もすすんでいない。未だ戻れる状態ではないと思っている。

### [いわき市四倉仮設住宅お茶会<sup>2</sup>]

- 2月15日(土)お茶会は大雪の為に中止となりました。
- 3月8日(土)第23回お茶会は、避難者男性1名を含む12名の参加、支援スタッフはよつ葉生協1名、とちぎコープから7名、県連2名の合計10名の参加となりました。食事には、「豚汁」と混ぜご飯のおにぎり、菜花の煮浸し、新たまねぎとわかめの和え物、うどんのお漬物などが並び、近づく「春」を感じさせられるメニューで大変好評でした。今回の手芸は、ペットボトルキャップに布地や紙粘土を使った「カーネーション」のミニチュア作りでした。手を動かしているのも、おしゃべりが弾み、おひとりでも3つ作る方もありました。「部屋が狭いので、小さいものがちょうどいい。」「内容を工夫して考えてくれて、毎回楽しみです。」などの声が聞かれました。一方で「不安」なことや、震災時のことや動物についても話題になっていました。避難者の方から南天の枝に「猿」(難を転じ、難が去る)の乗った壁掛け手作り小物をプレゼントしていただきました。▶今回男性チームは、いわき市の「いわき市石炭・化石館」を見学しました。常磐炭田の採掘の歴史と、市内で発掘された化石や、地球の歴史を物語る諸外国の化石資料を

<sup>1</sup> 栃木県生協連が中心になり、NPO法人ウィズ、行政などの協力のもと、社会福祉法人ふれあいコープ特養みどりの地域交流室を使って開催する福島からの避難者を対象にしたお茶会。①参加者同士をつなげる場、②参加者の想っていること困りごとを受けとめつなげる場、③おしゃべりを楽しんでもらう場の3つの目的を立てて実施しています。基本は毎月第三火曜日。

<sup>2</sup> 栃木県生協連が中心なり、いわき市四倉仮設住宅に暮らす避難者の方を対象にしたお茶会。現地の集会室を借りて実施します。基本は毎月第二土曜日開催。目的は、ふれあいお茶会と同様。

展示する施設で大変興味深い展示内容でした。反省会では、参加者との会話や感じたことを話合いました。

- ・ 事がお持ちいただいた豚汁の味噌が「手作り」であったことから、参加者の方も震災前に作っていた味噌が、震災の時には津波で流されてしまったこと、以前は原料1俵分を作った思い出などが語られた。
- ・ 前は雪で中止になり1ヶ月ぶりに被災者の方々にお会いできてほっとした。
- ・ 被災者の方から、「毎月ほんとうに楽しみ。」との話があった。こうした取り組みを続けていくことが大切。
- ・ 皆さんとても笑顔の表情が良くて印象的だった。いつもより笑い声が大きく感じた。わきあいあいだった。
- ・ ネコやイヌなど震災時にペットに起きた悲劇。飼育していたブタが野生化した話が合った。
- ・ 被災者の方から「ラジオ体操でも最大10人位が集まる程度で、しかしお茶会はそれ以上に人が集まる場で感謝しています」

- 4月19日(土)第24回お茶会は、わらび餅などのお菓子や軽食が用意されました。毎回楽しみにしていただいている「手芸」は、コップに剣山を入れて、すきなお花を飾るフラワーアレンジメントでした。「手軽にできて、無心になれるのが良い」「飾る場所も取らないので良い」などと好評でした。今回は、栃木県に避難されている方2名が参加しました。「同じ被災者の方と話ができて良かった」「知っている人の名前も出て懐かしかった」「避難して初めて田んぼの話ができた」など、本当に来て良かったと感激していました。男性陣は、大きな桜の木のある神社へ行き、「とまとランド」という巨大なハウス栽培の施設に回りました。仮設住宅は、鍵がかかって開かない所や人の気配が感じられない所が増えているように感じました。来年の3月までが仮設への入居期限とあって、その後のことを心配している方もいらっしゃいました。

## 会員の状況

### ●よつ葉生協

4月20日(日) 富居理事長が小山市で「ネオニコチノイド系農薬の使用と対応について」という演題で講演しました。

### ●パルシステム茨城

東日本大震災の支援活動、高齢者・障がい者・子どもを対象にした見守り活動、レジ袋販売代金の一部を環境活動へ寄付する活動などが認められ、平成26年度消費者支援功労者彰を受賞しました。(消費者庁HP参照=<http://www.caa.go.jp/information/2014gekkan/index.html>)

## 県連内部運営

### ●生活困窮者支援事業の学習に参加しました

事務局では、みやぎ生協で実施されている「生活困窮者支援事業」の取り組み報告会に3月4日に参加し、事業内容について学習しました。支援事業への期待が多い事、協同組合として地域コミュニティーへの積極的な関与が大事なことを改めて痛感しました。

### ●鎌柄参与の退任について

前年の総会から年度末3月31日まで参与をお願いし、生協連の運営について事務局の指導をお願いして参りました。予定通り、3月31日をもって退任されましたのでご報告いたします。生協運動に永年関わり、精力的に活動された鎌柄さんに心より御礼を申し上げます。

### ●事務局体制について

3月から続が派遣社員から栃木県生協連の嘱託職員となりました。

以上